

平成28年度 学校評価実施報告書（前期）

七条中学校

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの研究を推進し、各教科で言語活動を明確にした単元計画を作成する ・年4回の研究授業と年2回の公開授業週間を実施する ・先進校への視察研修を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・(子)学校の勉強がよくわかること ・(子)授業の中で、友だちと話し合う場面があること ・(子)皆の前で自分の考えを発表したり書いて伝えたりすることができること ・学習確認プログラムの結果
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲・関心を高めるような家庭学習課題の在り方を工夫する ・家庭学習の重要性を生徒・保護者に向けて啓発する 	<ul style="list-style-type: none"> ・(子)生徒の家庭学習時間 ・各教科での宿題提出状況 ・(学)生徒が意欲・関心を持てる家庭学習課題を定期的に出すとともに、点検・評価で生徒の学習意欲を引き出すこと
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・七条中ブロックの「ルールとマナーブック」を製作する ・小学校と連携して「あいさつ運動」「クリーンキャンペーン運動」を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・(子)ルールをまもり、マナーを心がけること ・(子)自分から進んで気持ちの良い挨拶をすること ・4校の社会性変容調査の結果
	自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・七条中ブロック4校が連携して、教育課程の中で自己有用感を育む教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4校の社会性変容調査の結果 ・(学)生徒の自己有用感が高まるような機会づくりを教育課程の中で行うこと
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立に向け、朝食摂取や8時間睡眠などの呼びかけ・研修等を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・(保)子どもと一緒に朝ご飯を食べること ・(子)8時間程度の睡眠をとること ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組の内容と回数
	安全意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けと保護者向けに薬物乱用防止教室やケータイ教室などを実施する ・地域を巻き込んだ防災学習を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・(子)パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、おうちの人と決めた約束を絶対に守ること ・薬物乱用防止教室やケータイ教室などの実施回数
独自の項目	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会・授業研究・教員交流などを実施する ・教育課程の中で地域・小学校と交流する ・HP・学校便り・学年便りなどで積極的な情報発信に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・(保)学校が、ホームページやおたより、掲示物などで積極的に情報発信していること ・HP・学校便り・学年便りなどの発信状況 ・地域や小学校との交流事業の実施状況



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年8月18日
	評価者・組織	職員会議
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
学習確認プログラム全市平均から少しポイントを上げている。 学校の勉強がよくわかること 70% 授業の中で、友達と話し合う場面があること 80% 皆の前で自分の考えを発表したり書いて伝えたりすること	アクティブ・ラーニングの考えを取り入れた授業の実践の中でとくに言語活動によって生徒が主体的に学べるようになりそれが学力向上に効果ができている。	引き続き主体的に学習できる方法を取り入れた授業改善を行う中で学習意欲と学力向上を目指していく。各種検査の結果を分析し改善策を練っていくシステムを作っていく。
家庭で学習の時間1時間学習する45%昨年度より10%上昇	家庭学習を習慣づけるための課題を出すことにより学習時間が伸びてきた。	家庭学習課題の状況を分析しより効果的な内容や量の学習を保障できるようにする。
・「ルール、マナー」は重要度84%、実現度87% ・「自分から進んで挨拶」は重要度97%、実現度80% ・4校の社会性変容調査では、各項目5段階で、「適応感」が4.3、「授業」が3.9、「いじめ」が4.5であった。	「ルール・マナー」は達成度が高いが、「挨拶」は大切とは思いますが不十分だと感じている生徒もいる。学校を楽しんでいる生徒が多い。「いじめ」は被害・加害とも元々少なく、減少傾向にあるが、「嫌なことをされた」経験は増えている。	挨拶は生徒会・部活動を中心に取り組んでいるが、結果からも取組に関わる人数を増やすなどの改善が必要である。暴力やいじめは減っているが、「嫌な事をされた」の増加は、スマホ等の影響もあると思われるので、早期の情報教育が必要である。
・4校の社会性変容調査の自己有用感・自己肯定感を示す項目は、小5:3.3、小6:3.3、中1:3、中2:2.9、中3:2.8であった。(5段階、小学校は3校の平均)	・自己有用感は小学校5年から6年で増える学校もあったが、中学では学年が上がるにつれて減少傾向にある。自己有用感を育てる取り組みが7月までに実施できなかったことも要因にある。	・学校行事や部活動を通して縦割りや協力し、上級生がリーダーシップをとれる組織環境づくりをしていく。 ・小学校と連携した総合学習の発表や大掃除など異年齢での関わりを増やす。
85%の子どもが毎朝朝食を食べている。	毎日朝食を食べる割合は、90%を目指したい。	「保健だより」だけでなく、学級活動の時間を確保して、食に関する指導を実施する。
25%の生徒が、1日3時間以上パソコンやゲーム、携帯、スマートフォンを使用している。	昨年度よりは、パソコンやゲーム、携帯、スマートフォンを使用している割合は、昨年度より少し減った。	SNSなどの使用による生活習慣への悪影響や取得した情報等を適切に処理できるようにするための健康教育を充実させる。
・小中の連携が『重要である意識は昨年度と変わらないが、実現度が大幅に増加した(+22.8)。また、地域へ出向いての活動も(+8.2)と層化している。その反面、情報発信が少なくていいない。(-1.1)	・今年度も小中で道德教育について取組を進めている。また、今年度は新たに小中で学習規律についての作成、及びその他の小中合同での授業内での取組も進んだ。しかし、いくつかのプロジェクトが取組の途中なので年度内に進める必要がある。	・進んでいない取組について、具体的に日程等を決めて実施していく。 ・情報発信も定期的に行えるように発信日を決めて行う。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月27日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・今年度は3年生のみが平均を上回っている。子どもの様子にも関係しているのだと思いますが、昨年度と同じように学力の2極化になっているようです。その手立てが大切ですね。	授業などで地域ボランティアとして協力できることなどをできたらと考えています。
子ども・保護者ともに家庭学習の重要性はわかっているようですが、実際家庭学習の実現度が低い。この家庭学習の習慣をつけることが大切である。	家庭学習の習慣化が大切なので、我々も色んなところで保護者啓発を心がけたい。
・「子どもは挨拶をしているのに、大人がしていない」だから子どもがしなくなっていく。大人がどれだけ規範意識を持っているかですな。	・今回、PTAや地域に配ってくださった「ルールとマナー」について、我々からも保護者や地域の大人に分かりやすく機会あることに話していきたい。
・今年度も子どもたちが、いくつかの地域行事に参加してくれて活気付いて喜んでます。	・我々も学校行事などに参加する機会を作って子どもたちとの交流を図ることで関係つくって今後の行事に生かせるようにしたい。
朝食を食べてない子どもは、寝る時間が遅くなり朝に時間ギリギリまで寝ているのが原因なのでしょう。	子どもにとって朝食を食べることは健康上そして成長の上でも大切なことなので、地域でもその大切さを話していきたい。
パソコンやゲーム・スマートフォンの使用があつという間に低年齢化しているのが現状です。そのため普段の生活が乱れているように思います。	地域での様々な会議等で携帯やゲームについて、どうすれば子どもの生活をしっかりと過させることができるのか考え呼びかけていきたい。
小学校と中学校の間だけでなく、地域でも小中学校が一緒に行事等(下京区の防災訓練)に参加していただいているように感じている。	創立60周年記念行事では、地域としても協力できたと思っています。これからそのことと同様に11月の防災学習などいろいろなことに協力をしていきたい。

平成28年度 学校評価実施報告書（後期）

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	引き続き主体的に学習できる方法を取り入れた授業改善を行う中で学習意欲と学力向上を目指していく。各種検査の結果を分析し改善策を練っていくシステムを作っていく。	・(子)学校の勉強がよくわかること ・(子)授業の中で、友だちと話し合う場面があること ・(子)皆の前で自分の考えを発表したり書いて伝えたりすることができること ・学習確認プログラムの結果
	家庭学習の習慣化	家庭学習課題の状況を分析しより効果的な内容や量の学習を保障できるようにする。	・(子)生徒の家庭学習時間 ・各教科での宿題提出状況 ・(学)生徒が意欲・関心を持てる家庭学習課題を定期的に出すとともに、点検・評価で生徒の学習意欲を引き出す
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・七条中エリアで小中学校が連携を図り、「子ども及び大人のルールとマナーブック」を作り上げることができた。 ・小学校と連携し「あいさつ運動」を実施した。	・(子)ルールをまもり、マナーを心がけること ・(子)自分から進んで気持ちの良い挨拶をすること ・4校の社会性変容調査の結果
	自己有用感の育成	七条中エリアの4校が連携協力し、教育課程の中で「掃除指導」や「発表会」など交流を図り、自己有用感を育む教育活動を実施	・4校の社会性変容調査の結果 ・(学)生徒の自己有用感が高まるような機会づくりを教育課程の中で行うこと。
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的な生活習慣の確立に向け、朝食摂取や8時間睡眠などの呼びかけ・研修等を実施する	・(子)朝ご飯を食べること ・(子)疾病の予防のため歯みがきをする ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組の内容と回数
	安全意識の向上	・生徒向けと保護者向けに薬物乱用防止教室やケータイ教室などを実施する ・地域を巻き込んだ防災学習を実施する	・(子)パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、おうちのひと決めた約束を絶対に守ること ・薬物乱用防止教室やケータイ教室などの実施回数
独自の項目	開かれた学校づくり	・夏休みの小中合同研修会を機に、各主任会での取り組みが後半に目標達成に向け実践交流が深まった。(授業研修、各主任会、子どもを交えた交流活動) ・HP・学校だよりなど情報を定期的に発信する。	・(保)学校が、ホームページやおたより、掲示物などで積極的に情報発信していること ・HP・学校便り・学年便りなどの発信状況 ・地域や小学校との交流事業の実施状況



自己評価		
評価日	平成29年1月12日	
評価者・組織	職員会議	
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
学習確認プログラム全市平均からポイントを上げている。 学校の勉強がよくわかること 62% 授業の中で、友達と話し合う場面があること 70% 皆の前で自分の考えを発表したり書いて伝えることができること 家庭で学習の時間1時間 学習する56%（第1回目より 11%上昇）	アクティブ・ラーニングの考えを取り入れた授業の実践の中で、とくに言語活動によって生徒が主体的に学べるようになりそれが学力向上に効果がでてきている。一方で、「自分の意見を表現したり、発表したりする力」が課題であることがはっきりしてきた。 家庭学習を習慣づけるための課題を出すことにより1、3年生は学習時間が伸びてきた。2年生は少しだが、実現度が下がった。	アクティブ・ラーニングの考えを生かした授業で(対話的学び)「表現力」を身につけさせるための研究を実践していく。(案) 予習的な課題を設定することで授業に積極的に取り組めるようにする(反転授業まではいかないが)。復習的な課題を設定することで知識の定着を図る。
・「ルール、マナー」は重要度98%、実現度90%と前期よりUP。 ・「自分から進んで挨拶」は重要度97%、実現度82%と前期よりUP。 ・4校の社会性変容調査では、各項目5段階で、「適応感」が4.3、 ・人に対して役に立てた実現度が2%UP(生徒)、そのような取り組みを実践できた24%UP(教職員)	「ルール、マナー」及び「あいさつ」について前期に続いて実現度が高くなっている。日常生活で生徒そして教職員が常に意識して行動することで高い実現度が達成できている。 小学校と連携をとり、具体的に取り組みを進めることができた成果が表れている。	この高い実現度が校内にとどまらず、地域や校外での活動時にも活かせるよう更に意識を高めれるように校外でのかつみどう活動時に取り組む。 次年度は、各主任会を中心に年度当初から実践計画を立てて行う。
85%の子どもが毎朝朝食を食べている。 約13%の子どもが、1日1回しか歯みがきをしていない。 25%の生徒が、1日3時間以上パソコンやゲーム、携帯、スマートフォンを使用している。	毎日朝食を食べる割合は、90%を目指したい。食後は歯をみがく習慣を身に付けさせる必要がある。 昨年度よりは、パソコンやゲーム、携帯、スマートフォンを使用している割合は、昨年度より少し減った。	学級活動の時間を確保して、食に関する指導に歯科保健の分野を取り入れて実施する。 SNSなどの使用による生活習慣への悪影響や取得した情報等を適切に処理できるようにするための健康教育を充実させる。
保護者・生徒・教職員の三者すべてにおいて実現度がUPしている。特に教職員は30%UPしている。	情報発信について発信者の実現度が高くなったことと、取り組み実践を家庭内でも親子の会話が今まで以上に行われた結果と考えられる。	・取り組みへの事前のお知らせや取り組み後のタイムリーな情報発信ができる体制を整える。



学校名(七条中学校)	
学校関係者評価	
評価日	平成29年2月22日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・前回よりも、学習や読書に関する生徒・保護者・教職員の意が、後期でもは向上しているのは取り組みの効果があると思われる。 ・今回は、11月に実施された「防災学習」、はじめは地域の方も緊張して臨みましたが、実際交流してみると和やかな雰囲気の中で「防災トーク」進み有意義な時間を過ごせた。参加した地域の方からも是非次回にも参加させて	・「防災学習」には今後も参加させていただきたいし、楽しみにもしていますので、要望にあわせて協力できる体制をとっていききたい。
・児童、生徒が積極的に「ルールやマナー」づくりに取り組んでいるので、地域の大人たちももっとしっかり「ルールやマナー」を大人自身が守れるように「大人の本気」を意識し行動していきたい。	・「ルールやマナー」のリーフレットを各自治会に回覧と掲示をし、七条中エリアの学校と連携して協力体制を図ります。
・家庭学習以外の時間としてスマホ・携帯の使用、ゲームで遊ぶケースがあり、朝食・睡眠時間など基本的な生活習慣等が確立しにくくなっている。このことについても大人が子どもとのルールやマナーをしっかり話せるようにしなければいけない。	・これまで同様継続して携帯やゲームの危険性などの話をするとともに、基本的な生活習慣等の呼びかけとともに、地域でも施設で講演などを企画し案内をしていきたい。
この後期には、小中が一緒に取り組みを行ったり、地域も一緒に進めていた機会がなくなり、情報発信だけでなく実際に参加することが大きかった。	必要な情報があれば、リーフレットと同様、協力体制をとれます。

3 総括・次年度の課題

- ・ここ数年、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っており、生徒たちが地域で活動する機会が増えた。また、地域の方々の学校への意識も年々高くなり、参加・協力をして頂ける機会が増えた。
- ・生徒の大きな問題行動は少ないが、様々な課題を抱えている生徒は多い。いじめや不登校の問題も本校の課題の1つである。今後も、未然防止・早期発見・早期対応及びきめ細やかな指導を継続して行っていきたい。
- ・今年度、定期的に宿題・課題を出すように試みた。しかし、継続した取り組みまでにはいたっていないので、再度検討し、主体的に臨める家庭学習の習慣化を図れるように取り組んでいきたい。
- ・今年度小中で策定した「ルールとマナー」を4校において実践しきること、学習規律や規範意識の向上を目指したい。
- ・全ての子どもの自己有用感を高めるために、次年度も小学校や地域と連携し、教育課程の中で子どもたちの主体的な活動の場を設定し計画的に取り組んでいきたい。